

**大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）  
【大学一般枠、特例枠】実施状況報告書**

選定年度	令和5年度	学校コード	F107110101273	改修内容	研究科等の設置（職員+学部等の設備・職員
大学名	福島大学	設置区分	国立	事業計画名	課題即応型の実践力を有した高度情報専門人材の育成
学校種	大学	都道府県	福島県		

## 1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究開発等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組状況）と取組状況及び自己評価を記載してください。

当初計画から変更は追加した取組がある場合は取組状況に記載下さい。また、計画変更を申請した場合は取組状況に承認日を赤字で記載して下さい。

計画の進捗の遅れ又は実現困難な事項がある場合は、自己評価が下位2つの場合に、課題（理由）との対応を記載してください。計画通りに実施されており、その他の課題がない場合に限り記載は不要です。

事業計画	取組状況		自己評価、課題（理由）との対応
	R5年度自己評価	[3]計画を十分に実施している。	
令和5年度	<p>【情報系組織の入学定員】            (修士課程) 20名、(学士課程) 80名            共生システム工学科研究科 共生システム工学科専攻 教員・情報システムコース（修士課程）10名            共生システム工学科研究科 共生システム工学科専攻 物理・カトヨニクスコース（修士課程）10名            共生システム工学科 理論・情報科学コース（修士課程）25名            共生システム工学科 経営システムコース（修士課程）25名            共生システム工学科 物理・システム工学科（修士課程）30名            3月：学士課程（共生システム工学科）の合格者登録による登録申請            今後年度に於ける登録申請期間：毎年3月～3月（情報・情報科学コース、経営システムコース及び物理・システム工学科コース）            令和5年度に於ける登録申請期間：毎年3月～3月（情報・情報科学コース、経営システムコース）に予定</p> <p>①12月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程入学定員増枠に対するための実習環境整備（既存ビデオ室改修による情報部門実習室の整備）            ② 9月～3月 学士課程コース編成、実践情報工学科プログラム実施、高度情報専門人材育成推進室開設            ③ 8月～1月 教員採用準備（教員採用基準・選考会開催）（実践情報工学科プログラム評議会準備、大学院教育プロトコル検討会の実施）R6年度を予定する教員5名の採用を決定。            今後年度から令和14年度の間に導入を予定している情報専門実習室用コンピュータシステムについてリース予定としており、買付の取り扱いとなることが明示いため、令和6年度及び令和11年度に情報専門実習室用コンピュータ式を導入することに変更すると共に、リース費用に含まれていた保守料を要託・外注費に分けて、情報専門実習室用PCシステム保守料として計上することとした。（R5.12.8参考）</p>	<p>【情報系組織の入学定員】            (修士課程) 20名、(学士課程) 80名            共生システム工学科研究科 共生システム工学科専攻 教員・情報システムコース（修士課程）10名            共生システム工学科研究科 共生システム工学科専攻 物理・カトヨニクスコース（修士課程）10名            3月：修士課程（共生システム工学科）の容収定員変更に係る認可申請</p>	R5年度自己評価 [3]計画を十分に実施している。
令和6年度	<p>① 4月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程入学定員増枠に対するための実習環境整備（情報部門新規開設コースカットオフ式運用・リース契約年）            ② 4月 新規教員登録（第1回）            ③ 4月～10月 教員採用準備（教員採用基準・選考会開催）（実践情報工学科プログラム評議会実施、大学院教育プログラム設計、大学院新規開設入学定員を反映した指揮体制強化などR7年度を予定する教員）            ④ 4月～1月 教員採用準備（選考会第2回開催）（実践情報工学科プログラムの実施、大学院教育プログラムの設計、大学院新規開設入学定員を反映した指揮体制強化などR7年度を予定する教員）</p>	<p>① 4月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程入学定員増枠に対するための実習環境整備を遂行し、9月に情報部門新規開設コースカットオフ式運用（R6.12.1年目）、満席を開始した。            ② 4月～4月15日付で新規教員（第1回）5名を配置した。            ③ 4月～2月 修士課程コース編成、実践情報工学科プログラムの評議会を実施し、これらを活用する最初の入学年度（R7年度）の入試を実施した。            ④ 4月～6月 情報専門実習室用コンピュータ式運用（R6.12.1年目）を開始した。            ⑤ 4月～1月 情報専門実習室用コンピュータ式運用（R6.12.1年目）を開始した。            ⑥ 6月 大学院新規開設コースカットオフ式運用（R6.12.1年目）を開始した。            ⑦ 6月～3月 教員採用準備（選考会第2回開催）（実践情報工学科プログラムの実施、大学院教育プログラム設計、大学院新規開設入学定員を反映した指揮体制強化などR7年度を予定する教員）を実施した。公募上の、応募者に対して面接選考を行ない、通過者はいない判断の採用活動を実施することとした。</p>	R6年度自己評価 [3]計画を十分に実施している。
令和7年度	<p>① 4月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程入学定員増枠に対するための実習環境整備（修士課程）20名、(学士課程) 120名            4月 共生システム工学科 球情報工学科（修士課程） 25名増員予定（入学定員75名）            4月 共生システム工学科 球カトヨニクスコース（修士課程） 15名増員予定（入学定員45名）            ③ 4月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程「情報工学リソリューションプログラム」「情報工学実験室実習カリキュラム」実施、博士前期課程「情報工学リソリューションプログラム」            ④ 4月～3月 教員採用準備（選考会第2回開催）（新規教員登録（第1回））            ⑤ 8月～3月 教員採用準備（選考会第3回開催）（新規教員登録（第2回））            ⑥ 4月～3月 情報専門実習室用コンピュータ式運用（リース契約年）</p>	<p>① 4月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程入学定員増枠に対するための実習環境整備を遂行し、9月に情報部門新規開設コースカットオフ式運用（R7.12.1年目）、満席を開始した。            ② 4月～4月15日付で新規教員（第1回）5名を配置した。            ③ 4月～2月 修士課程コース編成、実践情報工学科プログラムの評議会を実施し、これらを活用する最初の入学年度（R7年度）の入試を実施した。            ④ 4月～6月 情報専門実習室用コンピュータ式運用（R7.12.1年目）を開始した。            ⑤ 4月～1月 情報専門実習室用コンピュータ式運用（R7.12.1年目）を開始した。            ⑥ 6月 大学院新規開設コースカットオフ式運用（R7.12.1年目）を開始した。            ⑦ 6月～3月 教員採用準備（選考会第2回開催）（実践情報工学科プログラムの実施、大学院教育プログラム設計、大学院新規開設入学定員を反映した指揮体制強化などR8年度を予定する教員）を実施した。公募上の、応募者に対して面接選考を行ない、通過者はいない判断の採用活動を実施することとした。</p>	○年度自己評価 リストから選択してください。
令和8年度	<p>① 4月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程入学定員増枠に対するための実習環境整備（修士課程）20名、(学士課程) 120名            6月 修士課程（共生システム工学科研究科）の令和8年度定員増枠を踏まえ要求事項に記載予定</p>	<p>○年度自己評価            リストから選択してください。         </p>	
令和9年度	<p>① 4月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程入学定員増枠に対するための実習環境整備（修士課程）40名、(学士課程) 120名            4月 共生システム工学科研究科 共生システム工学科専攻 教員・情報システムコース（修士課程）10名増員予定（入学定員20名）            4月 共生システム工学科研究科 共生システム工学科専攻 カトヨニクスコース（修士課程）10名増員予定（入学定員20名）            ③ 4月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程「情報工学リソリューションプログラム」「情報工学実験室実習カリキュラム」実施、博士前期課程「情報工学リソリューションプログラム」            ④ 4月～3月 教員採用準備（選考会第2回開催）（新規教員登録（第1回））            ⑤ 8月～3月 教員採用準備（選考会第3回開催）（新規教員登録（第2回））            ⑥ 4月～3月 情報専門実習室用コンピュータ式運用（リース契約年）</p>	<p>○年度自己評価            リストから選択してください。         </p>	
令和10年度	<p>① 4月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程入学定員増枠に対するための実習環境整備（修士課程）40名、(学士課程) 120名            3月 学士課程の令和11年度実験カリキュラム実施            ③ 8月～2月 地域教職員化の進捗事務に関する状況分析（第二次）：最終ニーズの集約            初歩的な等級別構成の実務事務の把握、実務事務検討            ④ 4月～3月 情報専門実習室用コンピュータ式運用（リース契約年）</p>	<p>○年度自己評価            リストから選択してください。         </p>	
令和11年度	<p>① 4月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程入学定員増枠に対するための実習環境整備（修士課程）40名、(学士課程) 120名            3月 学士課程の令和12年度実験カリキュラム実施            ③ 8月～2月 地域教職員化の進捗事務に関する状況分析（第三次）：最終ニーズの集約            初歩的な等級別構成の実務事務の把握、実務事務検討            ④ 4月～3月 情報専門実習室用コンピュータ式運用（リース契約年）</p>	<p>○年度自己評価            リストから選択してください。         </p>	
令和12年度	<p>① 4月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程入学定員増枠に対するための実習環境整備（修士課程）40名、(学士課程) 120名            3月 学士課程の令和13年度実験カリキュラム実施            ③ 8月～2月 地域教職員化の進捗事務に関する状況分析（第四次）：改善実務箇所の検討            ④ 4月～3月 情報専門実習室用コンピュータ式運用（リース契約年）</p>	<p>○年度自己評価            リストから選択してください。         </p>	
令和13年度	<p>① 4月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程入学定員増枠に対するための実習環境整備（修士課程）40名、(学士課程) 120名            3月 学士課程の令和14年度実験カリキュラム実施            ③ 8月～2月 地域教職員化の進捗事務に関する状況分析（第五次）：改善実務箇所の検討            ④ 4月～3月 情報専門実習室用コンピュータ式運用（リース契約年）</p>	<p>○年度自己評価            リストから選択してください。         </p>	
令和14年度	<p>① 4月～3月 学士課程「実践情報工学科プログラム」及び修士課程入学定員増枠に対するための実習環境整備（修士課程）40名、(学士課程) 120名            3月 教員採用準備（内人採用含む）候補者候補者検討、支拂期間終了後の事業展開等検討            ③ 4月～3月 情報専門実習室用コンピュータ式運用（リース契約年）</p>	<p>○年度自己評価            リストから選択してください。         </p>	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福島大学
-------------	-------	-----	------

## 2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当なし	<input checked="" type="checkbox"/>
------	-------------------------------------

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当なし	<input checked="" type="checkbox"/>
------	-------------------------------------

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当なし	<input checked="" type="checkbox"/>
------	-------------------------------------

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当なし	<input checked="" type="checkbox"/>
------	-------------------------------------

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当なし	<input checked="" type="checkbox"/>
------	-------------------------------------

## 3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学の新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/>
対象に該当しない	<input type="checkbox"/>

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

③ 産業界を営む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な競争の枠組みを活用するなど出口における競争優位にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科・専攻、コース等の設置・増員（研究科・専攻の定員の増員を伴わないものも含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科・専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものも含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」といいます。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑧ 教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科・専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むもの限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むもの限る。）を有する大学とする。）

既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/>
---------------------	-------------------------------------

⑨ 機構による事業計画の策定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行なう計画であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を作らう学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心同規模の定員減を行う計画であること。

計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------	-------------------------------------

⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑬ 文部科学省が実施する教諭・データサイエンス・A.I.教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に開設する主な学部が認定を受けている、又は認定を受け計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。

認定を受けている、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/>
認定を受ける計画が進んでいる	<input type="checkbox"/>

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	福島大学
-------------	-------	-----	------

⑩ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けていた大学でないこと。			
認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/>		

#### 4. 審査項目における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

##### ① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
データサイエンス教育の一環として、福島市など自治体との連携した地域課題解決のための実践型演習（例えば、データサイエンス実践演習）を実施している。その中で、自治体から提供された実験データを分析し、最終的には福島市長へ報告書「福島市立福島高等学校」を発表している。今後は、これら実践型演習を更に発展させ、後輩学生に対する指導・助言役を含めて大学生が積極的に参画させて、実践型演習を通じて実験能力を有した高度情報専門人材育成の充実を図る。	データサイエンス教育の一環として、実践型演習（データサイエンス実践演習）では、福島市と連携して、実際の課題やデータに基づく政策提言・施策立案に取り組み、福島市長への報告書を実施した。	福島市立福島高等学校の開拓では、福島県立福島高等学校の探究活動中間発表会への参加させて、実践型演習を通じて実験能力を有した高度情報専門人材育成の充実を図る。

##### ② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
福島県の全学的な取り組みとして、「福島市子どもの夢を育む施設『わくわく』と連携し、小中学生の科学理解増進と本学学生の教育成果を発信すること目的にサマーキャンプを開催しておき、共生システム工学科教員・大学院生・学生類生が、地元の子供達に実験・実測を楽しく体験させてる屋台を設け、自然科学系に対する子供の興味増進に寄与してきた（新型コロナウイルス感染症で中断したが、5種類に伴い令和5年度から再開予定）。本取組では、これまでプロジェクトにて大学生を参加させることがで、大学生の実験能力養成と共に、後輩の育成を図ることで「大学院進学者を対象とした給付型奨学生制度」を開設した。	福島市立福島高等学校の開拓では、福島県立福島高等学校の探究活動中間発表会への参加させて、実践型演習を通じて実験能力を有した高度情報専門人材育成の充実を図る。	福島県立福島高等学校の開拓では、福島県立福島高等学校の探究活動中間発表会への参加させて、実践型演習を通じて実験能力を有した高度情報専門人材育成の充実を図る。

##### ③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和7年度入試（令和6年度実施）において、学士課程（共生システム理工学類）総合型選抜で、将来、理系の教育に関する職業に対する意欲を有する女性志願者について、32名の募集人員のうち福島大8名を優先して合否とする理系教育女性人材育成枠を設ける。（予告のみ） また、入試料白紙を軽減し、博士課程への進学意欲を有しないようにするために、博士前期課程進学料の免除を新規に実施する予定である。	学士課程（共生システム理工学類）総合型選抜において、将来理系の教育に関する職業に対する意欲を有する女性志願者を対象とする「理系教育女性人材育成枠」を設け、選抜実施に向けた検討・準備を実施した。 高等専門学校からの編入学生が大学院に進学する場合の入学科を減免する制度について検討した。高等専門学校卒業見込み者を対象とする既存の入学推奨入試に関する「支援制度」について整備する方向で検討している。	福島県立福島高等学校事業「福島大学探求訪問（2023年10月）」に際して、福島大学の大学院での学び等に関する高校向けのレクチャーや質疑応答等として本学の大学院生が寄与した。

##### ④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
福島工業高等専門学校と「友好協力及び学術交流に関する協定」を締結し、熊炉人材育成の共同事業など、研究・教育両面で連携してきた。また、向高専から共生システム理工学類への編入学生を継続的に得ており、学生の目標を含めて高い認知度を有する。本取組では、大学院進学者を対象とした「高専編入学推薦入試」を新設し、高専・学士課程・大学院の接続を含めた連携強化を進めている。 また、ACF（アカデミック・コンソーシアムふくしま）や料金を削減する制度を実施している。また、社会人や他分野出身学生の大学院における情報工学領域への転換を支援する「情報工学リスキリングプログラム」を実施し、既修科自前の履修による単位を一定の範囲内で博士前期課程の単位に必要な単位数に含めることを認めることで、社会人の志願者を取り込み回る。	R5年度は、高等専門学校からの編入生6名が入学した。また、福島工業高等専門学校との「友好協力及び学術交流に関する協定」に基づき、熊炉人材育成の共同事業など、研究・教育両面で引き続き連携している。さらに、高専・学士課程・大学院の接続を考慮した施設として、高等専門学校からの編入生が大学院に進学する場合の入学料を減免する制度について検討した。 ACF（アカデミック・コンソーシアムふくしま）や国際共修（ICL-Channels）の単位互換制度による特別認証学生（単位互換学生）として、R5年度は、7名の学生を受け入れた。また、コラドロ州立大学との連携協定に基づいて、R5年度は、同大学から4名の特別認証学生を受け入れた。	大学院入試では、社会人特別選抜を実施しており、学歴だけにこだわらずに専門的実務経験等の個別審査により出願資格を認定する制度を引き続き適用している。また、社会人や他分野出身学生の大学院における情報工学領域への転換を支援する情報工学リスキリングプログラムについて、実施に向けた検討を行った。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	福島大学
-------------	-------	-----	------

## 2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当なし	<input checked="" type="checkbox"/>
------	-------------------------------------

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当なし	<input checked="" type="checkbox"/>
------	-------------------------------------

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当なし	<input checked="" type="checkbox"/>
------	-------------------------------------

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当なし	<input checked="" type="checkbox"/>
------	-------------------------------------

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当なし	<input checked="" type="checkbox"/>
------	-------------------------------------

## 3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学の新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/>
対象に該当しない	<input type="checkbox"/>

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

③ 産業界を営む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な競争の枠組みを活用するなど出口における競争優位にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科・専攻、コース等の設置・増員（研究科・専攻の定員の増員を伴わないものも含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科・専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものも含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」といいます。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑧ 教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科・専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むもの限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むもの限る。）を有する大学とする。）

既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/>
---------------------	-------------------------------------

⑨ 機構による事業計画の策定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行なう計画であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を作らう学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心同規模の定員減を行う計画であること。

計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/>
-----------------------	-------------------------------------

⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
------------	-------------------------------------

⑬ 文部科学省が実施する教諭・データサイエンス・A.I.教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に開設する主な学部が認定を受けている、又は認定を受け計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。

認定を受けている、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/>
認定を受ける計画が進んでいる	<input type="checkbox"/>

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	福島大学
-------------	-------	-----	------

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	<input checked="" type="checkbox"/>
認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/>

#### 4.審査項目における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

##### ① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
データサイエンス教育の一環として、福島市など自治体との連携した地域課題解決のための実践型演習（例えば、データサイエンス実践演習）を実施している。その中で、自治体から提供された実験マニュアルを分析し、最終的には福島市長に発信して、福島市長に対する改進提言を行っている。今後は、これら実践型演習を更に発展させ、後輩学生に対する指導・助言力を含めて大学院生を積極的に参画させていく。 また本学では、福島県の現実課題に応じる研究会「iR2プロジェクト」として大学院生が開催している。その中で、情報人材育成の実践力を有した高度情報専門人材育成の充実を図る。 また、人材育成の実践力と連携して、令和5年度から情報人材育成の実践力を有した高度情報専門人材育成の充実を図る。 さらに、大手情報通信企業と連携し、令和5年度から情報人材育成の一環として「大学院進学者を対象とした給付型奨学生制度」を開設した。	データサイエンス教育の一環として、実践型演習「データサイエンス実践演習」では、福島市・南相馬市と連携して、実際のデータを基に自治体が抱える課題の分析と政策提言を行った。 福島大学iR2プロジェクト（福島型STEAM教育の開拓）から活動継続したプロジェクト研究所「STEAM研究所」の取り組みの一環として、基礎教育科目「STEAM美学修习」における学生への助言等に大学院生を参画させるなど、実践力養成に努めた。 大手情報通信企業との連携による「大学院進学者を対象とした給付型奨学生制度」を引き続き運用し、R6年度は10名に奨学生を給付した。	

##### ② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
福島大学の全般的な取り組みとして、「福島市子どもの夢を育む施設『わくわく』と連携し、小中学生の科学理解増進と本学学生の教育成果を発信すること目的に「サイエンス屋台村」を実施しておき、共生システム理工学研究科教員・大学院生・学類生が、地域の子供達に実験・実測を楽しく体験させてきた。屋台は幾種類、自然科学系に対する子供の興味増進に寄与してきた。（新型コロナウイルス感染症で中断したが、5ヶ月間に伴い令和5年度から再開予定）。本取組では、情報系分野の「屋台」を拡大・拡充する予定である。 また、SSU（後継事業合意）指定位に応じて、共生システム理工学研究科の大学院生を派遣し、高校生による研究発表に対する助言・指導等を含む取組を実施してきた。高等専門学校は好評を得ており、本取組では、情報系大学院生の派遣を積極的に強化する。	小中学生の科学理解増進と本学学生の教育成果を発信すること目的とした取り組みとして、「福島市子どもの夢を育む施設『わくわく』と連携して、福島大学わくわくカレッジ（2024年8月）を実施した。ここで、子供たちへの説明や実演による講義を行った。 日本大学東北高等学校の「大学探査訪問」（2024年8月）において、福島大学での学び等に関する高校向けの説明や質疑応答をして本学学生（大学院進学希望の学士課程学生）が寄与した。	

##### ③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和7年度入試（令和6年度実施）において、学士課程（共生システム理工学類）総合型選抜で、将来、理系の教育に関する職業に就くことを目的に「理系教育女性人材育成枠」を設ける。 また、情報人材育成の基礎となる改進提言「市长レセプション」を実施しておき、共生システム理工学研究科教員・大学院生・学類生が、地域の子供達に実験・実測を楽しく体験させてきた。（新型コロナウイルス感染症で中断したが、5ヶ月間に伴い令和5年度から再開予定）。本取組では、情報系分野の「屋台」を拡大・拡充する予定である。 また、SSU（後継事業合意）指定位に応じて、共生システム理工学研究科の大学院生を派遣し、高校生による研究発表に対する助言・指導等を含む取組を実施してきた。高等専門学校は好評を得ており、本取組では、情報系大学院生の派遣を積極的に強化する。	学士課程（共生システム理工学類）入試において、将来理系の教育に関する職業に就くことを志す女性志願者を対象とする「理系教育女性人材育成枠」を設けた新たな総合型選抜を実施した。 高等専門学校からの編入学生が大学院（共生システム理工学研究科 博士前期課程）に進学する場合、進学時の入学料を免除する制度を新設し、R7年度「高等専門学校対象推薦入試」（R6年度実施）から適用を開始した。 大学院入試では、社会人特別選抜を実施しており、学歴だけにとらわれず専門的実務経験等の個別審査により出願資格を認定する制度を運用している。さらに、社会人や他分野出身学生の情報工学領域への転換を支援する「情報工学リソルバブルプログラム」を実施し、転換科自前の履修による単位を一定の範囲内で博士前期課程の単位に必要な単位数に含めることを認めることで、社会人の志願者の取り込みを図る。	

##### ④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
福島工業高等専門学校と「友好協力及び学術交流に関する協定」を締結し、廃炉人材育成の共同事業など、研究・教育両面で連携してきた。また、向高専から共生システム理工学類への編入学生を継続的に得ており、学生の合格を含めて高い認知度を有する。本取組では、大学院進学希望者を対象とした「高専編入学推薦入試」を新設し、高専・学士課程・大学院の接続を含めた連携強化を進めている。 また、ACI（アカデミック・ソーシャル・カルチャ）や料金等修制を活用した地域大学との学生の相互講座を実施してきた。今後は、情報系授業科目への学生受け入れを強化し、本取組の成果を積極的に地域還元する。 加えて、共生システム理工学類・研究科では、海外の大学との学生相互派遣を積極的に実施している。一例として、コラボリゲート立大学との連携協定に基づき、学生の現地派遣・福島大学への受け入れを展開してきた。東日本大震災以降、環境放射能にに関する派遣及び受け入れで実績をあげた基礎を活かし、高度情報専門人材育成事業では情報系領域での連携を強化する。	R6年度は、高等専門学校からの編入学生3名が入学した。また、福島工業高等専門学校との「友好協力及び学術交流に関する協定」に基づき、廃炉人材育成の共同事業など、研究・教育両面で連携を進めている。加えて、高専・学士課程・大学院の接続を考慮した施設として、高等専門学校からの編入学生が本学大学院に進学する場合の入学料を免除する制度を整備し、R7年度「高等専門学校対象推薦入試」（R6年度実施）から適用を開始した。 R6年度は、科目等履修生として5名の学生を受け入れた。また、マレーシアの情報系学会（IEEE Computer Society）幹事団を福島大学に招き、学生の相互派遣を含めた協力の可能性について議論した。	

大学名	福島大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

1 – 2 .修士課程

〈合計〉

大学名	福島大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

1-3.学士課程

合計

大学名	福島大学	改組内容	研究科等の設置・増員 + 学部等の設置・増員（一般枠）	本事業対象となる研究科等の個数	2
-----	------	------	-----------------------------	-----------------	---

## 1.本事業対象となる情報系組織の状況

1 – 2 .修士課程

〈内訳〉

(1) 改組組織名	共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻 数理・情報システムコース
-----------	---------------------------------------

大学名	福島大学
-----	------

(2) 改組組織名	共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻 物理・メカトロニクスコース
-----------	--

## 1.本事業対象となる情報系組織の状況

1 – 3 .学士課程

### 〈内訳〉

(1)	改組組織名	理工学群 共生システム理工学類 情報理工学コース
-----	-------	--------------------------

大学名	福島大学
-----	------

(2) 改組組織名	理工学群 共生システム理工学類 メカトロニクスコース
-----------	----------------------------

大学名	福島大学	改組内容	研究科等の設置・増員 + 学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	-----------------------------

## 2.情報系組織の状況

2-1.博士課程

大学名	福島大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

2-2.修士課程

大学名	福島大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

2-3.学士課程

大学名	福島大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

### 3.大学全体の状況

3-1. 博士課程

3-2.修士課程

大学名	福島大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

### 3-3.学土課程

年度			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																		
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	945	945	985															
		入学者数	人	1,012	998	1,069															
その他の学期		入学定員	人	***	***	***															
		入学者数	人	***	***	***															
入学者合計		入学定員(A)	人	945	945	985	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	1,012	998	1,069	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率(B/A)	倍	1.07	1.06	1.09	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
収容定員等		収容定員(C)	人	3,840	3,840	3,880															
		編入学員	人	30	30	30															
		在籍者数(D)	人	4,093	4,111	4,230															
		編入学者数	人	39	30	26															
		収容定員充足率(D/C)	倍	1.07	1.07	1.09															

### 4.外部資金の状況（全学）

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	924,896	1,377,972																	

#### 特記事項

○理工学群 共生システム理工学類 情報理工学コース及びメカトロニクスコースは、入学定員を入学者数とみなし、各コースの定員数にて回答した。これらのコースについては、令和7年度入学者から2年次にコース配属となるため、在籍者数も同様に、令和7年度入学者数とみなし回答した。また、各コースの女子学生数及び留学生数は、学類全体の入学者数の女子学生及び留学生の割合から算出した。

○共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻 数理情報システムコース及び物理・メカトロニクスコースの「その他の学期」の入学定員0人は、若干名を意味している。同様に、情報系組織における博士課程・修士課程及び、大学全体における博士課程・修士課程の「その他の学期」の入学定員0人も、若干名を意味している。